

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 2 日現在

機関番号：32644

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25590280

研究課題名(和文)知的障害者のメンタルヘルスの評価方法の開発に関する研究

研究課題名(英文)Development of the mental health assessment for adults with intellectual disabilities

研究代表者

菅野 和恵 (KANNO, Kazue)

東海大学・健康科学部・准教授

研究者番号：80375451

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：知的障害者の雇用環境が充実されることに伴い、知的障害者の就労継続支援が、重要な課題となっている。本研究は、その対応方法の1つとして、知的障害者のメンタルヘルス評価について検討した。他者が知的障害者のメンタルヘルスに関して評価する方法を用い、その経年的変化を事例的に検討した。評価項目は、抑うつ気分に関する項目と興味または喜びの喪失に関する項目で構成された。得点の著しい変化が見られた者と精神的な不調の観察が見られた者が一致した事例があった。メンタルヘルスの変化を捉えることに役立つことができると考えられ、就労継続支援のための実践活動にも活用できると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Currently in Japan, there is almost no method of evaluating the mental health for adults with intellectual disabilities. The aims of this study were to develop a questionnaire for adults with intellectual disabilities and to find various changes by a longitudinal study. I investigated the mental health of workers with intellectual disabilities by the Mood, Interest and Pleasure Questionnaire which was translated into Japanese (MIPQ-J). The MIPQ-J relies on proxy not self-reports but reply from support staff. Participants who decrease score in MIPQ-J consisted with information about depression from support staff. The result suggest that MIPQ-J would be a useful tool for the assessment of the mental health of adults with intellectual disabilities. I suggest that using the MIPQ-J is effective for planning vocational supports for adults with intellectual disabilities.

研究分野：障害者心理学

キーワード：知的障害者 就労支援 メンタルヘルス 障害者福祉

1. 研究開始当初の背景

ICD-10 (World Health Organization, 1992) においては、知的障害者の精神障害の有病率は、一般人口に比べて少なくとも3倍から4倍と述べられている。これらは、遺伝子に起因する症候群関連性の病態という要因だけでなく、環境要因も重要な要因であり、言語能力に関連するコミュニケーションの難しさや失敗経験の積み重ねが、二次的障害としての抑うつや不安障害などにつながっていると指摘されている(真田, 2006)。上平(2007)は、メンタルヘルスについて、人の精神的不健康状態の早期発見・治療を目的とするのみではなく、予防や精神健康の維持・増進を目標とする幅広い実践的活動であるとしている。知的障害者のメンタルヘルスの向上においても、同様に幅広い実践的活動が重要であると考えられる。

知的障害者における就労場面の動向として、一般就労者数が年々増加している(厚生労働省, 2009)。知的障害者の雇用環境が充実されるにつれ、その課題も顕在化している。中でも、知的障害者の就労継続支援は重要な課題である。特例子会社で働く知的障害者の課題に関する検討においては、メンタルヘルスの評価の取り組みの重要性が指摘されている(松井・菅野, 2011)。本研究は、その対応方法の1つとして、知的障害者のメンタルヘルス評価法の開発を試みた。

日本における知的障害者のメンタルヘルス評価法に関しては、Ross and Oliver (2003a) によって開発された The Mood, Interest & Pleasure Questionnaire (以下、MIPQ) を参考とし、他者が知的障害者のメンタルヘルスに関して評価する方法を用いて、病的な状態になる以前に早期発見、発症予防をしていく予備的検討が行なわれている(福田・菅野, 2010)。また、MIPQ を用いて、就労場面における知的障害者のメンタルヘルス評価の信頼性と妥当性に関する検討も行なわれている(福田・菅野, 2012)。本研究では、知的障害者のメンタルヘルス評価に関する経年的変化を検討し、評価の活用可能性を追求する。

知的障害者のメンタルヘルスを評価し、病的な状態を未然に防ぐことは知的障害者のQOLの向上につながると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、Ross and Oliver (2003a) によって開発された MIPQ を参考とし、自己評価を行うことが困難である知的障害者を対象に、他者が知的障害者のメンタルヘルスに関して評価する方法を用いて、病的な状態になる以前に早期発見、発症予防をしていく可能性を考えている。

まず、成人期知的障害者のメンタルヘルスの評価やその支援に関する実践や研究を整

理する。そして、成人期の知的障害者のメンタルヘルスに関して、その経年的変化を検討し、評価の活用可能性について検討することを目的とする。

知的障害者は言語での表現に制限がある人が多いために、自分からなんらかの不調等を訴えることができない人が多い。したがって、周囲が気づき、対応していくことが必要である。信頼性と妥当性の高い質問紙を用いることにより、支援者が変わっても一貫したサポートができるような評価ができる。さらに、経年的変化を検討し、評価の頻度の妥当性について言及することは、メンタルヘルス評価法の実施の手順を考える上でも、非常に重要である。これらにより、知的障害者のメンタルヘルスの維持や管理に関する実践活動に取り組みやすくなることが期待できる。

3. 研究の方法

(1) 成人期知的障害者のメンタルヘルスの評価やその支援に関する実践や研究の整理および分析

成人期知的障害者のメンタルヘルスの評価においては、日本においてははまだ初期の試行段階であると言える。海外の文献を収集し、研究動向を整理し、実践について分析する。

(2) 就労場面における知的障害者のメンタルヘルスの経年的変化の分析

対象

一般就労をしている知的障害者のうち、会社側及び本人または保護者に承諾が得られた者を対象とした。

会社側へは口頭又は紙面にて依頼及び研究や倫理的配慮についての説明を行った。調査協力の承諾が得られた会社に対し、知的障害者本人又は保護者への依頼書と同意書を郵送し、配布してもらった。知的障害者本人又は保護者に対し、依頼書にて研究や倫理的配慮に関して説明を行い、同意書に記入してもらった。同意書は会社側でまとめて返送してもらった。

質問紙

福田・菅野(2010)により、The Mood, Interest & Pleasure Questionnaire を参考とし開発された質問紙を用いた。これは、MIPQの開発者のひとりであるChris Oliver氏にMIPQの日本語版を作成し、使用することの承諾を得たものであり、大学教員及び大学院生等数名により、日本語へ翻訳され、さらに大学教員、特例子会社に勤める障害者雇用の専門家、特別支援学校教諭、大学院生等の専門家数名により、内容検討がなされたものである。妥当性と信頼性は確かめられている(福田・菅野, 2012)。

質問紙は、第1部と第2部から構成されている。第1部では対象者の基本属性を尋ねた。対象者の基本属性に関しては、対象者の性別、年齢、障害者手帳(療育手帳)の区分、居住

形態、現在勤務している会社での勤続年数と業務内容、障害種別、てんかんの有無、メンタルヘルスに問題をかかえたり精神的な不調が観察されたことがあるかどうか、精神科医にかかったことがあるかどうか、投薬の有無を尋ねた。

第2部では、作成されたMIPQを用いた。これは、過去2週間の対象者の行動に関して、5件法で回答してもらった。回答方法としては、過去2週間の対象者の行動として、最も当てはまる番号に丸をつけてもらった。

なお、作成されたMIPQは、2つのサブスケールで構成され、それぞれMood(抑うつ気分)サブスケールとInterest & Pleasure(興味または喜びの喪失)サブスケールとなっている。

手続き

質問紙は、同意が得られた対象者ごと、一部ずつ封筒に入れ、郵送により会社へ送付した。郵送した際には、封筒に一部ずつ入った質問紙と質問紙の実施要領、返信用封筒を同封した。回答は、支援員やジョブコーチといった対象者をよく知る職場の支援者に回答してもらった。回答後は再び一部ずつ封筒に入れてもらい、会社で一括して返送してもらった。

倫理的配慮

紙面又は口頭にて説明を行い、会社側及び対象者本人又は保護者に同意を得た。結果の公表は、個人や個人の職場等が特定されないよう十分配慮する等個人情報保護に厳守した。質問紙には番号をつけて管理・分析した。番号の管理は著者のみが行い、個人や個人の職場が特定できないよう十分配慮した。

会社側の調査協力承諾書及び知的障害者本人又は保護者の同意書、回答してもらった質問紙に関しては、大学の研究室にある鍵の付いたロッカーに保管した。

結果の処理

MIPQに関しては、Ross and Oliver(2003a)および福田・菅野(2010)と同様に、全25項目全ての点数を加算した点数を25項目全体の得点として算出した。得点は、1番、4番、7番、10番、12番、13番、18番、20番、21番、23番、25番の項目に関しては、0点、1点、2点、3点、4点と得点化した。2番、3番、5番、6番、8番、9番、11番、14番、15番、16番、17番、19番、22番、24番の項目に関しては、逆転して得点化した。

また、Mood(抑うつ気分)サブスケールの領域の項目である、1番、4番、7番、9番、11番、13番、15番、17番、20番、21番、23番、25番の項目の得点を加算した得点をMood(抑うつ気分)サブスケール得点として算出した。同様に、Interest & Pleasure(興味または喜びの喪失)サブスケールの領域の項目である、2番、3番、5番、6番、8番、10番、12番、14番、16番、18番、19番、22番、24番の項目の得点を加算した得点をInterest & Pleasure(興味または喜びの喪

失)サブスケール得点として算出した。この時、低い得点においては、低い気分レベルや低い興味と喜びのレベルを示すように得点化した。MIPQ-Jの25項目全体の得点の最高得点は100点、Mood(抑うつ気分)サブスケール得点の最高得点は48点、Interest & Pleasure(興味または喜びの喪失)サブスケール得点の最高得点は52点とした。

4. 研究成果

(1) 成人期知的障害者のメンタルヘルスの評価やその支援に関する実践や研究の整理および分析

成人期の重度もしくは最重度の知的障害のある成人のメンタルヘルスに関しては、mood(気分)に関するアセスメントの利用が注目を集めている。mood(気分)に関するアセスメントの利用は、精神医学的な診断を超えて、言語表出がなかったり限界がある知的障害者のQOLの評価に使用することが提案されている。また、気分障害、特にうつ病のあらわれを確定する試みがなされている。さらに、成人期の知的障害者におけるうつ病のあらわれ方に関する論争があり、特に重度障害において、いわゆる非定型的な症状と称される挑戦的行動(チャレンジング行動)の出現とうつ病のあらわれの関連が論じられている(Ross & Oliver, 2003b)。

成人期の知的障害者の気分障害に関して、重度・最重度の知的障害者における抑うつは、「古典的な状態像」で顕われない可能性が指摘され、むしろ、自傷行動、攻撃性、怒りっぽさといった非典型的な徴候としてあらわれることが論じられていた。これらの自傷行動、攻撃性、怒りっぽさは、挑戦的行動とも称される、抑うつ病の徴候と挑戦的行動の関連性に関する検討では、MIPQが測定され、挑戦的行動を示した参加者のMIPQ得点が、挑戦的行動がない対象者よりも低いことが示されていた(Ross & Oliver, 2002)。

このように、成人期知的障害者のメンタルヘルス、中でも気分障害のアセスメントとしてMIPQが多く用いられていることがわかった。また、重度の知的障害者のQOL評価にMIPQが用いられていることや、気分障害と挑戦的行動の関連性が論じられていることが示された。

(2) 就労場面における知的障害者のメンタルヘルスの経年的変化の分析

経年的変化を検討するために、全25項目による総得点、抑うつ気分サブスケール得点、興味または喜びの喪失サブスケール得点について、X年とX+5年で比較した。

その結果、対象者全員の得点が低下していた。また、総得点が30点以上低下した対象者が2名いた。2名は、抑うつ気分サブスケール得点と興味または喜びの喪失サブスケール得点のどちらにも低下がみられた。また、そのうち1名は、ここ1年間の間で精神的な

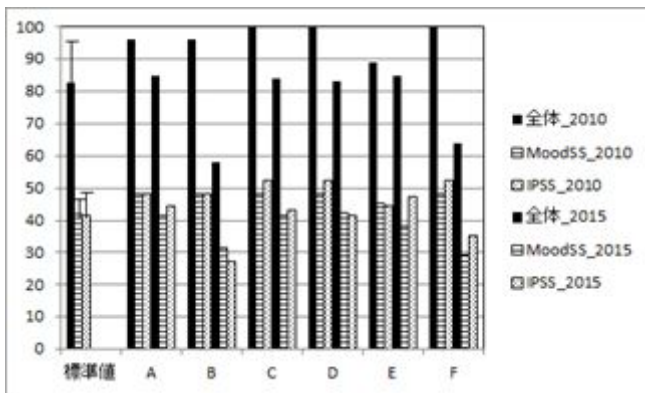


図 1

不調が観察されたという報告がある事例であった。

図 1 は、福田・菅野 (2012) の得点と本研究で得られた対象者の結果を比較したものである。福田・菅野 (2012) の得点を標準値として示した。総得点が 30 点以上低下した対象者の 2 名は、X 年においては標準値よりも高い得点であったが、X+5 年においては、標準値よりも低い得点であった。得点の著しい変化が見られた者と精神的な不調の観察が見られた者が一致した事例が、1 例あることが示された。

本研究の結果より、作成した質問項目は、知的障害者のメンタルヘルスの変化を評価することに役立つ可能性があると考えられた。また、就労継続支援のためのメンタルヘルスマネジメントの実践活動に活用できると考えられる。

<引用文献>

福田麻子・菅野和恵(2010)知的障害者のメンタルヘルスに関する予備的研究 MIPQ 日本語版の作成 . 発達障害支援システム学研究, 9, 98.

福田麻子・菅野和恵(2012) 知的障害者の就労場面におけるメンタルヘルスのスクリーニング法の開発の試み The Mood, Interest & Pleasure Questionnaire (MIPQ) を用いて . 日本特殊教育学会第 50 回発表論文集.

松井優子・菅野和恵 (2011) 知的障害者を雇用する特例子会社の現状と課題, 発達障害研究, 33, 416-429 .

Ross, E. & Oliver, C. (2002) The relationship between levels of mood, interest and pleasure and 'challenging behaviour' in adults with severe and profound intellectual disability. Journal of Intellectual Disability Research, 46(3), 191-197.

Ross, E. & Oliver, C. (2003a) Preliminary

analysis of the psychometric properties of the Mood, Interest & Pleasure Questionnaire (MIPQ) for adults with severe and profound learning disabilities. British Journal of Clinical Psychology, 42, 81-93.

Ross, E. & Oliver, C. (2003b) The assessment of mood in adults who have severe or profound mental retardation. Clinical Psychology Review, 23, 225-245.

眞田敏 (2006) 成人期知的障害者の健康と医療 . 発達障害研究, 28(3), 208-215 .

上平忠一 (2007) ターミナルケアとメンタルヘルス 知的障害者福祉施設におけるターミナルケアの実践に関する一考察 . 長野大学紀要, 29(3), 1-10 .

World Health Organization (1992) The ICD-10 Classification of Mental and Behavioural Disorders: Clinical description and diagnostic guidelines. World Health Organization, Geneva. 融道男・中根允文・小見山実・岡崎祐士・大久保善朗監訳 (2005) ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン 新訂版 . 医学書院 .

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

Kazue Kanno & Asako Fukuda (2013) Developmental of the mental health for adults with intellectual disabilities in competitive employment - The MIPQ-J. Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities, 10, 135. 査読無 .

〔学会発表〕(計 1 件)

Kazue Kanno & Asako Fukuda (2013) Developmental of the mental health for adults with intellectual disabilities in competitive employment - The MIPQ-J. 3rd IASSIDD Asia-Pacific Congress, Tokyo. 2013 年 8 月 22 日 ~ 24 日 . 早稲田大学 (東京都新宿区)

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

菅野 和恵 (Kanno, Kazue)
東海大学・健康科学部・准教授
研究者番号 : 80375451